

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成 17 年 9 月 15 日 (2005.9.15)

【公開番号】特開 2004-283444 (P2004-283444A)
 【公開日】平成 16 年 10 月 14 日 (2004.10.14)
 【年通号数】公開・登録公報 2004-040
 【出願番号】特願 2003-80571 (P2003-80571)
 【国際特許分類第 7 版】

A 6 3 F 7/02

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

A 6 3 F 7/02 3 3 4

【手続補正書】
 【提出日】平成 17 年 3 月 24 日 (2005.3.24)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】特許請求の範囲
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

ケース本体部材と、前記ケース本体部材に開閉可能に装着されるケース蓋部材とを備え、前記ケース本体部材に前記ケース蓋部材を閉止状態で装着して形成されるケース内部に遊技機に搭載された電子部品を制御する制御基板を収容する基板ケースにおいて、

前記ケース本体部材に連結して設けられた本体側係合部と、前記ケース蓋部材に連結して設けられた蓋側係合部と、前記本体側係合部と前記蓋側係合部とを連結可能な接続部材とを備え、

前記接続部材を用いて前記本体側係合部と前記蓋側係合部とを連結させることで前記ケース蓋部材が前記ケース本体部材に閉止状態で装着された状態を保持し、前記本体側係合部および前記蓋側係合部の少なくともいずれかにおける前記ケース本体部材もしくは前記ケース蓋部材との連結部を切断することで前記ケース本体部材から前記ケース蓋部材を開放することができるように構成された基板ケースの不正開放防止機構であって、

前記本体側係合部が、

前記ケース本体部材に一体に設けられ、前記蓋側係合部と連結される側の一端が開口した本体側収容空間が形成された本体側収容部と、

前記本体側収容空間内に固設されて前記接続部材と係合可能な本体側係合補助部材とから構成され、

前記蓋側係合部が、

前記ケース蓋部材に一体に設けられ、前記本体側係合部と連結される側の一端が開口した蓋側収容空間が形成された蓋側収容部と、

前記蓋側収容空間内に固設されて前記接続部材と係合可能な蓋側係合補助部材とから構成されており、

前記接続部材を前記本体側係合補助部材と前記蓋側係合補助部材とに係合させることにより、前記本体側係合部と前記蓋側係合部とが連結されるように構成されていることを特徴とする基板ケースの不正開放防止機構。

【請求項 2】

前記本体側係合補助部材が前記接続部材の一端側を収容して係合可能な本体側係合空間を有して構成され、前記本体側係合空間が前記蓋側係合部と連結される側に開口するよう

にして前記本体側係合補助部材が前記本体側収容空間内に収容されるとともに溶着もしくは接着されて前記本体側係合部に固設され、

前記蓋側係合補助部材が前記接続部材の他端側を収容して係合可能な蓋側係合空間を有して構成され、前記蓋側係合空間が前記本体側係合部と連結される側に開口するようにして前記蓋側係合補助部材が前記蓋側収容空間内に収容されるとともに溶着もしくは接着されて前記蓋側係合部に固設されていることを特徴とする請求項 1 に記載の基板ケースの不正開放防止機構。

【請求項 3】

前記本体側係合部および前記蓋側係合部が透明樹脂材料から作られ、前記本体側係合補助部材および前記蓋側係合補助部材が有色樹脂材料から作られていることを特徴とする請求項 1 もしくは 2 に記載の基板ケースの不正開放防止機構。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

【課題を解決するための手段】

このような目的達成のため、本発明に係る基板ケースの不正開放防止機構は、ケース本体部材と、ケース本体部材に開閉可能に装着されるケース蓋部材とを備え、ケース本体部材にケース蓋部材を閉止状態で装着して形成されるケース内部に遊技機に搭載された電子部品を制御する制御基板を収容する基板ケースにおいて、ケース本体部材に連結して設けられた本体側係合部と、ケース蓋部材に連結して設けられた蓋側係合部と、本体側係合部と蓋側係合部とを連結可能な接続部材とを備え、接続部材を用いて本体側係合部と蓋側係合部とを連結させることでケース蓋部材がケース本体部材に閉止状態で装着された状態を保持し、本体側係合部および蓋側係合部の少なくともいずれかにおけるケース本体部材もしくはケース蓋部材との連結部を切断することでケース本体部材からケース蓋部材を開放することができるよう構成された基板ケースの不正開放防止機構である。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

そして、この不正開放防止機構は、本体側係合部が、ケース本体部材に一体に設けられ、蓋側係合部と連結される側の一端が開口した本体側収容空間が形成された本体側収容部と、本体側収容空間内に固設されて前記接続部材と係合可能な本体側係合補助部材とから構成され、蓋側係合部が、ケース蓋部材に一体に設けられ、本体側係合部と連結される側の一端が開口した蓋側収容空間が形成された蓋側収容部と、蓋側収容空間内に固設されて接続部材と係合可能な蓋側係合補助部材とから構成されており、接続部材を本体側係合補助部材と蓋側係合補助部材とに係合させることにより、本体側係合部と蓋側係合部とが連結されるように構成されている。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

また、本体側係合部および蓋側係合部の少なくともいずれかにおけるケース本体部材もしくはケース蓋部材との連結部が切断可能に構成されているため、この連結部を切断すれ

ばケース本体部材からケース蓋部材を外すことができるが、このように連結部を切断したときにはその破壊痕跡が残るためこれを容易に発見でき、不正行為を効果的に抑止できる。さらに、本体側係合部が別体の本体側収容部と本体側係合補助部材とから構成され、蓋側係合部が別体の蓋側収容部と蓋側係合補助部材とから構成されるため、本体側係合部および蓋側係合部（すなわち、ケース本体部材およびケース蓋部材）の複製がより難しくなり、不正行為の抑止が期待できる。

なお、本体側係合補助部材が接続部材の一端側を収容して係合可能な本体側係合空間を有して構成され、本体側係合空間が蓋側係合部と連結される側に開口するようにして本体側係合補助部材が本体側収容空間内に収容されるとともに溶着もしくは接着されて本体側係合部に固設され、蓋側係合補助部材が接続部材の他端側を収容して係合可能な蓋側係合空間を有して構成され、蓋側係合空間が本体側係合部と連結される側に開口するようにして蓋側係合補助部材が蓋側収容空間内に収容されるとともに溶着もしくは接着されて蓋側係合部に固設されるのが好ましい。さらに、本体側係合部および蓋側係合部が透明樹脂材料から作られ、本体側係合補助部材および蓋側係合補助部材が有色樹脂材料から作られているのが好ましい。これにより、本体側係合部および蓋側係合部（すなわち、ケース本体部材およびケース蓋部材）の複製等の不正行為をより確実に防止できる。